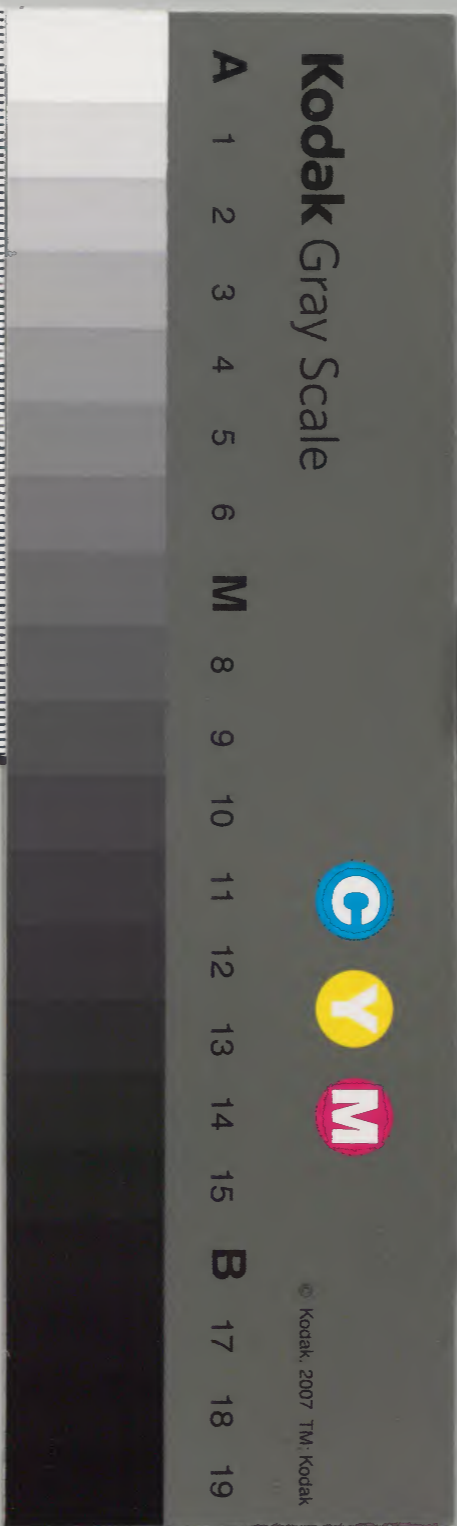


五十九

和書門			
四	八	七	〇
函	架	冊	號
九	三	冊	架

內閣文庫			
四	八	七	〇
函	架	冊	號
九	三	冊	架

內閣文庫			
番號	和	48780	
冊數	93 (59)		
函號	149	112	



武德編年集成卷之五十九

木村高敦撰

慶長十六年 辛亥年

正月大

○元日 駿府に於て歳首ノ御規式例ノ如シ

台徳公ノ御使酒井左衛門尉家次出仕ス

○二日 秀頼ノ使節大野主馬治房駿城ニ登テ

太刀馬代ヲ捧ク且今宵武江ニ於テ例ノ謡曲初

著座ノ次第左ノ松平左馬允忠頼松平安房守信

吉豆後改伊松平甲斐守忠良松平外記忠實本多伊

勢守忠俊右八家上駿河守家親小笠原兵部少輔
秀政淺野彈正少弼長政牧野駿河守忠成西江出
羽守正負仙石越前守忠政十云々

○三日 江府竜口蒲生飛騨守秀行カ宅出火メ

隣家池田三左衛門尉輝政カ宅類焼ス西館各去

年 台徳公御成ニ依テ新規ノ管作也 蒲生カ殿
舎麓畧ニ

メ其門ノ三人羅漢ヲ彫刻シテ美ヲ尽シ世ニ
日暮ノ門ト称シ譽ム今日幸ニ此門ハ災ヲ遁ル

○七日 神君田中ニ至リ放鷹シ玉フ

○九日 遠州榛原郡ヨリ中泉ニ至テ放鷹シ玉

7
遠州榛原郡ヨリ中泉ニ至テ放鷹シ玉

○十七日 中泉ヨリ駿州田中ニテ還 御アリ

○十九日 江城御鎧ノ嘉儀アリ例ノ連歌百韻興

行ニ依テ此道堪能ノ族伺公ス

若縁雲井リ立ヤ庭乃松 紹之

春の朝戸は明けしうん草 一 浄

りふそす百くろくひの多乃声 玄仲

○廿一日 新薩隅三州ノ太守従四位下行修理

大夫源朝臣義久入道龍伯享年七十九歳ニメ卒

又明谷寺卜謚ス嶋津家ノ英士三十餘人殉死ス

台徳公ノ使節揖斐與右衛門政景薩州ニ至リ御

香奠白銀一万兩ヲ賜フト云云

○廿三日 吉良左兵衛督義弥從四位下 叙ス

是ハ冬州西條ノ吉良左兵衛佐義安ノ孫上野介

義定ノ子母ハ今川上總介氏真ノ娘ト云云

二月小

○九日 稻富伊賀祐直入道一夢駿府ニ卒ス 火

能堪

○十九日 阿部折四郎重吉卒ス 享年八十二歳 神君

御幼雅ニテ駿府ニ寓居シ玉フ時ノ迫臣也御衰

惜不斜ト云云

○是月 松平筑後守康親冬州福釜ヨリ駿府へ

参勤ス舊冬獻スル処ノ鷹頭ニ逸物十リ頃日彼

捉処ノ鳥若干ニ及テ工一則其鳥料理セラレ康

親ニ賞味アラシメ且御盃ヲ賜フ 福釜松平家傳ニ見エ

三月大

○三日 上州館林ニ於テ渡辺仁兵衛廉綱享年

六十九歳ニメ卒ス是ハ冬州浦辺村ノ住士八右

衛門義綱カニ男十リ

○丑日 神君去年ヨリ御沙汰アリテ関東ノ群

士十万余ヲ率テ上洛シ玉フ一ニトテ今日駿城御

發駕ノ令兼テ下リシカ雨天工ハ延滞セラル

○六日 神君御發駕アリテ田中ノ城ニ至リ玉

御旅泊ノ次第懸川濱松吉田岡崎名護屋岐阜

赤坂彦根永原也名護屋ニハ一日御滞座ナリ

是日江戸ノ城經始ト云

○十四日 瀬名十右衛門正勝本氏四十六歳ニ

ノ卒ス

○十七日 神君伏見ノ城ハ着 御越前秀康郷

ノ庶子五郎八直矩八歳ニメ初テ拜謁ヲ遂ル

○廿日 尾張右兵衛督義直初メノ遠江常陸ノ

賴宣主初ノ譯從ニ位ニ叙シ參議ニ任シ右近衛

權中將ヲ兼任セラル水戸左衛門督賴房主ハ從

四位下ニ叙シ右近衛權少將ニ任セラル越前冬

河守忠直主ハ正四位下ニ叙シ右近衛權少將ニ

任ス義直ノ臣竹腰小傳治政信忠直ノ臣本多伊

豆初ハ次郎富正從五位下ニ叙ス政信ハ山城守

伊豆守先達テ神君ヨリ織田有樂ヲ以テ秀賴

既ニ其齡長セラル婚嫁以後數年對顔ナシ不日

ニ上京シ玉ヒ面謁アリテ兩家ノ好ヲ睦クシ玉

ハ、永々泰平ノ基タレハキ旨ヲ告ラル然レモ

秀賴圍房ニ成長シ庚子以來十有二年一步モ出

ル一無之是其寢アラシク母堂淀殿深々慎
ル、カエハナリ有樂ハ淀殿ノ叙父タリト云
氏淀殿其詞ヲ肯ヒ玉ハス群臣一同ニ神君ノ
命ヲ拒ニテ災害アラシクトシテ憂フルト云
諫ヲ容ルニ至ラス時ニ秀頼ノ嫡母大政所并
豊臣家骨肉ノ親臣加藤肥後守清正淺野紀伊守
幸長大坂ニ下向シ秀頼ノ上洛難哉アラハ
神君ノ怒ラセ玉ハントテ頼リニ述テ殊ニ清正
ハ若クハ秀頼入洛アリテ危フキニ及ハ、賤モ
幸長ト共ニ其席ニ死セン由頼リニ演説シ

神君平日暴戾ノ行状ナキ實ヲ告ル工ハ遂ニ淀
殿許容アリケレハ有樂大ニ歡ニテ是日依見ニ
往テ其趣ヲ言上セシカハ神君モ又御喜悦ア
リト云々

○廿二日 御當家ノ祖折田大炊助義重ハ從四
位下鎮守府將軍ノ贈ラレ先考徳川冬河守廣忠
君ハ正三位權大納言ヲ贈ラレ是ハ嚮ニ當今
ヨリ廣橋勸修寺兩郷ヲ以テ今度ニ神君太政大
臣ニ任セラレ菊桐ノ御紋ヲ賜フヘキ旨ニ密詔
アリケレハ神君曰相國ハ則嗣ノ官不肖ノ

家康撰リニ論命ニ應シ難シ菊桐ハ既ニ足利
將軍ニ賜リシ其跡ニテ拜受セシト新田家ノ榮
トスヘカラス葵ノ紋ヲ以テ用ユルニ足レリト
ス襄祖ト先考ハ贈官位ノ朝恩ヲ仰キ願フ旨
御返答アリ兩傳奏遂ニ奏聞ヲ歴ルノ取即
廣橋權大納言兼勝ヲ以テ上卿トシ日野右中辨
實有職事トメ義重并ニ廣忠君ハ贈官位ノ
宣下アリト云ク

○本多豊後守康重去ル十一日ヨリ風毒腫ヲ煩
フ神君松平助十郎秀信ヲ使第トシ尊翰ヲ賜

リ其可否ヲ問ル秀信岡崎ニ赴キケルカ今日康
重享年五十八歳ニメ卒ス

○廿二日神君御出京勸修寺權大納言光豊ノ
亭ニ於テ御衣冠ヲ整ヘラレ御齋内祖考ノ贈
官ヲ拜謝セラル尾張遠江西參議并越前女將モ
朝齋天酌アリ光豊是ヲ扶持ス退朝ノ時光
豊ノ尊ハ入御アリケレハ饗膳ヲ獻ス寂上出
羽守義光右近衛權少將ニ任シ堀尾山城守忠晴
從四位下ニ叙ス

○廿七日當今御位ヲ儲君政仁親王後水尾
帝是也

一讓ラセ玉フ
○是日豊臣秀頼大坂ノ城ヲ築シ川口ヨリ樓
舩ニ浮ニテ上京セラル伏見ニテ着岸ノ間淀川
ノ左右ヲ清正幸長カ弓銃ノ卒悉ク堅固ス舩中
ニ於テ饗應ヲ尽セリ 神君ハ熊ト二條ノ城ニ
テ 御對顔アルハキニ依テ數回舩中へ使節ヲ
以テ其來聘セラルトヲ謝シ玉フ

○廿八日 秀頼伏見ヨリ竹田大路ヲ歷テ入洛
ス尾張遠江兩參議島羽河原ニ迎ヘラル義直郷
ハ淺野幸長カ輦ナリ長臣成瀬竹腰相從テ頼宣

郷ハ加藤清正カ輦也先臣安藤水野隨逐ス池田
三左衛門輝政藤堂和泉守高虎各僕二人ヲ携ヘ
同ク島羽河原ニ至ル清正幸長ハ秀頼成長ノ躰
ヲ洛中ノ人ニ見スハキ爲ニ藥ノ左右ノ戸ヲ開
キ兩將ニ里カ間步行テ藥ノ側ニ漆ヲ右樂以下
太閤家ノ大名二十餘人秀頼ノ臣守桐大野七組
ノ頭ヲ始凡ソ三十餘輩扈從ス斤桐且元カ洛陽
ノ宅ニ入テ秀頼肩衣袴ヲ着セラレ辰ノ刻二條
ノ城ニ至ル當城四門ノ教衛ハ御家人ニ秀頼七
組ノ健士相加リテ是ヲ守ル 神君玄關ニテ秀

賴ヲ迎ヘ玉ヲ秀賴殿中ニ臨ニテ御座間ニ入テ
南ニ著座アリ神君ハ北ノ御座ヲ設ケ玉ヒ加
藤清正謁ス上下ヲ著シ秀賴ノ傍ニ侍座ス吸物
出ル時先達ニ大政所入掌アリシカハ相伴シ玉
ヲ神君ノ御盃秀賴ヘ至ル時大丸文字ノ刀鐺
藤四郎吉光ノ服差鷹ニ居駿馬十匹ヲ進セラレ
秀賴ノ盃ヲ神君ヘ至ル時真盛ノ太刀一文字ノ
刀南泉丸文字ノ脇差龍蹄一匹黄金三百枚純子
二十卷錦十卷猩々皮之巻長十五間十レヲ獻
セラレ尾州義直郷ヘ光忠ノ太刀黄金百枚遠州

賴宣郷ヘ守家ノ太刀黄金百枚 神君ノ三侍女
於万於河茶於 各白银三百枚惣女中ヘ黄金三百
枚本多上野介大久保石見守ヘ各黄金三十枚安
藤帯刀成瀬隼人正村越茂介ヘ各黄金二十枚大
澤女将ヘ白银百枚奏者番永井右近大夫直勝西
尾丹後守忠永秋元但馬守恭朝柳原伊豆政次城
和泉昌茂ヘ白银百枚宛御馬預諏訪部宗右衛門
定吉ヘ同三十枚鷹五及三人ヘ同十枚宛舍人十
三人ヘ同三十枚ヲ賜ル金座光次呉服師栄仁ヘ
同五十枚宛ヲ授ク御次ノ間ニテ清正幸長輝政

ヲ饗セテレ平岩主計頭伴食タリ其次ノ席ニ於
テ藤堂斤桐大野等ヲ饗應アリ本多上野介伴食
タリ然レ氏清正一人饗應ノ席ニ至テス始終秀
頼ノ側ヲ離レズ獻酬畢ル時大坂ニテ母堂待詔
玉ハニ御殿ヲト演ケレハ神君御許容アリテ
早ク飯城可然旨且大坂ノ臣寓居ノ光陰ヲ送テ
ハ士瓜自然ニ惜弱タルハ一萬石以上一人宛
交替メ駿府ニ在勤ス一旨御詔アリテ秀頼ヲ
又御玄關ニテ送テ玉ヲ秀頼從是豐國ノ祠ニ
詣テ白銀二百枚奉納アリ大工ノ長中井大和ニ

モ同ク是ヲ授ケ得長壽院^号之間堂ヲ周覽シ伏見
ニ赴カセテ几干時清正吾館ニ秀頼ヲ請待セシ
テハ神君ヲ憚リテ淀川ノ舩中ニテ盛膳ヲ進
メ扈從ノ士ヲハ川邊ニ薄縁席ヲ布テ酒食ヲ出
ス淺野幸長急ニ病ト称シ清正許秀頼ニ隨テ大
坂ニ至リケルカ飯宅ノ時懷叙ヲ出シ首ニ載キ
故大岡ノ厚恩今日是ヲ報スト獨言ス抑清正ハ
神君ヨリ肥後ノ大國ヲ一圓ニ封セラレ剩ハ清
正カ娘ヲ遠江參議少將家ニ嫁セラレ其厚恩ヲ
弁テ今度秀頼ハ忠勤都鄙悉ク之ヲ感激セテ

此者十二斯テ 神君ノ命ニ依テ大坂ヨリ秀頼
ノ臣下駿府へ交代在勤ス一キニ議定シケル當
冬ノ當番蔭田權佐正時ト云ク

○或曰福嶋左衛門大夫ハ今春病暈ニ依テ秀
頼上洛ニ扈從セズ大坂ニ止リケルカ自然於
京都秀頼ニ寢アラハ淀殿ト氏ニ大坂ノ城ニ
死ニト欲ス然レ氏世ニ其病疾ヲ疑テ巷説紛
然タリト云

○是月 丹波ノ貢税ヲ司ル權田小三郎ト能勢
小十郎ト山中ノ境論ニ依テ嚮ニ食議ノ上權田

非分ニ次ニ取領ヲ没収セラレ追テ租税ノ勘定
ヲ亂シル処ニ私曲多シ黄金七百枚ヲ上納ノ料
ヲ償フ

四月小

○二日 尾張遠江兩參議ヲ大坂へ遣シ秀頼ノ
上京ヲ謝シ玉フ秀頼城外川辺ニテ是ヲ迎フ
神君ヨリ秀頼へ白銀二百枚綿三百把紅花三百
斤簾中へ白銀百枚綿二百把紅花三百斤大藏郷
局二位局へ白銀五十枚宛養場局右京大夫局宮
内郷局阿古局伊奈局正榮尼へ白銀三十枚宛淀

殿ノ惣女中ノ白銀二百枚綿五百把簾中ノ惣女
中ノ白銀百枚綿三百把ヲ贈ラレ西冬誂ヨリ太
刀一腰馬一匹白銀二百枚宛秀頼ノ獻セラルル太
ハ直直郷ヨリ一文字國宗作頼宣
郷ヨリハ友成ノ作ト云ク
簾中且淀殿ノ
白銀百枚綿二百把紅花三百斤宛大藏郷ヨリ正
榮尼ニテハ女ノ白銀十枚綿五十把宛簾中及淀
殿ノ惣女中ノ白銀二百枚ヲ贈リ織田有樂片桐
市正ノ白銀五十枚宛織田民部少輔信重片桐主
膳正貞隆大野修理亮ノ白銀三十枚宛簾中ノ補
臣渡辺筑後守ノ白銀二十枚宛西冬誂ヨリ是ヲ

授ク秀頼本城ニ於テ西郷ヲ厚ク饗シ義直郷ノ
高木貞宗太刀義光ノ刀段子百卷時服十領桐服
苅田ノ小鞆筒ヲ授ケ頼宣郷ノハ二字國俊ノ太
刀松浦信國ノ刀純子百卷尼子ノ小鞆筒猿樂装
束ヲ授ケ尾陽候ノ老臣竹腰山城守政信ノ信國
ノ刀成瀬内五頭隼人正ニハ九文字ノ刀ヲ與ヘ
遠州候ノ老臣安藤帶刀重次ニハ助真ノ刀水野
對馬守重仲ノ一文字ノ刀三浦長門守邦時本氏
柁木
一ハ長光ノ刀ヲ賜フ西冬誂當日ニ伏見ノ飯ヲ
以今度御對顔濟テ洛陽難波堺津ノ高買甚々

安堵

○三日 神君伏見へ渡御 此頃徳山五兵衛則秀入道法眼二位法

印二轉任不

○四日 神君勝ノ方 太田新五郎重政カ妹 命之御外

孫女池田輝ヲ以テ伊達政宗ノ息忠宗へ嫁娶ノ

約

○廿日 神君伏見ヨリ二條へ還御

○七日 野州塩原ノ温泉ニテ浅野彈正少弼藤

原長政率去享年六十五歳也年来 神君御恫情

ヲ施サレ常ニ圍碁ニ玉ヲ長政没後永ク圍碁ヲ

止

○十二日 新帝御即位 御壽九歳 内大臣藤原信尚

内辨夕リ 神君晨頭ヲ召テ親式ヲ詳覽ニ玉ヲ

一乘院法親王并日野輝資入道唯心傍ニ候セラ

ル 御即位終テ御参 内アリテ 龍顔ヲ詳ニ

玉ヲ今日在京ノ大名誓盟ニ及テ

除

○一 古右好家以後代々公方如法式ヲ守作シテ号換

差後江戸於テ是法目録ヲ承テ守テテ

○一 或岸法度或遠 上意奉者國ノ不可拘也

一各拘致し法傳以下等為叛逆教害人由於之

之を届せし事不共相拘り

右の條より其の相背たる事遂に弘明の事処置神

法名也

延長十六年四月十二日

在京法大臣並別

○其後 上皇へ公田ヲ進獻之玉フ 禁闕修造

ノ事諸將ニ命セラル築地ヲ分テ經營ス修理

職内五寮是ヲ換斷シ八尺ヲ以テ一同トシテ其

入用銀二十有五百文目也 坂東ノ大名ハ白銀ノ

和守是ヲ請取
テ築クト云々

○十七日 御使番内藤六左衛門忠久率入 左甚丑

門正清カ孫平左衛
門清久カ子ナリ

○十八日 神君駿府へ御下向トメ今日御出京

アリ昵近ノ公郷栗田口ニテ送り奉ル永原ノ旅

營ニ著 御アリ

○十九日 彦根ノ城ニ至リ玉フ

○廿日 柏原ノ旅營ニ著 御

○廿一日 御旅泊岐阜ニ於テ鶴二百羽ヲ遣セ

點ヲ得玉フ

○廿二日 加納ノ城へ 台駕ヲ寄ラレ走ヨリ

名護屋ノ城ニ至リ玉フ

○廿三日 勢田ヨリ御乗船ノ処東風烈シク野

間内海ニ御船ヲ入ニトスレ氏ヲ夕ハスト云

○廿四日 東風尚烈ニ知多郡一御船ヲ寄テ師

崎ニ繫ク

○廿五日 冬州渥美郡年呂一御着岸供奉ノ輩

船中ノ難風ニ身心ヲ勞ニ頭痛嘔吐スト云一氏

神君及西參議ニハ聊カ違例ナニ俄ノ事ニ一此

辺傳馬十クハ供奉皆步行ス吉田ノ城ニ御止リ

ト云

○廿六日 中泉ニ着 御

○廿七日 田中ニ至リ玉フ

○廿八日 駿府ニ還入セテ

○是月 西戎ノ黒船相州三浦三崎ニ漂著スト

云

○五月小

○七日 台徳公ノ落胤幸松丸武州足立郡大間

木ノ里ニテ誕生 母堂ハ北條家ノ浪客神尾某娘也 元和三丁辰九

歳ノ時信州高遠ノ城主保科肥後守正光是ヲ養

嗣ト又 會津ノ太守ト又右中将ニ任正之ト稱セテ是也

○是月江城ノ經營殊ニ急カル

○六月小

○朔日 尾州名護屋ノ水利アリキ工ニ義濃伊

勢ノ國民ニ課セ船入ノ堀ヲ穿シメラル

○今春ヨリ加賀中納言利長郷并福嶋左衛門大

夫疾病大漸ニ至ル左衛門大夫正則當時存生ノ

内安藝備後兩國相違十ク其子備後守正勝ニ賜

心下キ旨訴望セシム 神君御許容アル工ニ備

後守坂東ニ下向ス

○十七日 堀尾帯刀吉晴一昨日ヨリ霍乱ヲ煩

ケルカ享年六十九歳ニメ卒ス父ハ中務吉久ト

称シ尾州上郡供御取ノ素生ニテ國士三十六人

ノ内也吉晴仁王丸ト称シ十六歳ヨリ武勇ヲ以

テ家ヲ興シ出雲隱岐兩國ノ太守ニ至ル

○十四日 肥後國主加藤清正領知ニ於テ疫癘

ヲ患ヘテ享年五十一歳ニメ卒ス是人ノ勇敢人

口ニ嗜灸シ義深クメ秀頼ニ尚忠志ヲ勵ス取ニ

急死セシカハ大坂ノ悲悞斜ナラスト云ク

○七月大

○三日 江府井伊兵部少輔直勝カ宅失火メ柳

原遠江守康勝カ管類焼ス
○八日 義濃高洲ノ城主徳永石見守昌時入道
式部郷法印壽昌率ス富饒ト遺金九百枚ニ及
フト云々

○十日 武城經營造畢ス

○十一日 入夜駿府市中ニテ御家人飯田傳吉
元朝ト同ク朝比奈甚太郎并常陸介殿ノ近臣松
野勘介園諱ス是ハ朝比奈松野兩人飯田カ外國
人ノ人々ルニ依テ是ヲ侮ル歎及要口刺ハ刀ヲ拔
テ切菟ル工ハ傳吉無恥松野及僕從氏ニ斬殺シ

朝比奈モ之ヲ取ノ深割ニ仍テ倒レ伏ス傳吉退
キ去ル町司彦坂九兵衛光正此事ヲ高聽ニ達ス
処ニ 神君飯田カ神妙ノ働ヲ感玉ヒ被 召返
テ勤仕ス朝比奈末練ノ取爲ニ依テ死ヲ賜フ

○十二日 前豊後國主大友義統カ子從四位下
行侍從兼左兵衛督源朝臣義延江府早稲田ニテ
率ス 庚子ニ父ハ御當家ハ不義タリト云ハ氏義
幕下ニ在
リト云々

○是月 驛宿取々ニ制策ヲ建テル其一ヲ記ス
餘ハ是ニ倣ハ

譯名定目

○一 江戶品川迄上京結安荷物一結只箱六費目有
京箱出指立舟同板橋上之指取をふりし事
東大船 舟人は賃ハ半分なりし事

○一 馬車と定荷物と作らざるを以て寄信止し事
○一 馬子くお遊費荷物多し事

○一 馬次く所之馬車くお遊費お遊てハ右ノ荷物馬
之由一先く結安定の事くお遊一一日言せ候
に身てお遊をふりし事ハ二湖と申す事

○一 馬車小荷物下之荷物と見合遊費と事

○一 遊船者船をハし可く年暮りお曲り事

○一 遊船物と申す上流と下流ハ何子の馬と申す事
次舟遊と一常に遊馬可お遊事

○一 右ノ條ノ旨お定り候事ハ遠岸ノ志ハ速記
岩科との也仍也件

慶長十六年

七月日

板倉伊勢守
若津法左馬
大久保石見守

○是月 阿媽港ヨリ東曾訥ト云ル者長崎一東
リ貢ノ獻ニ西域國海船總兵官東適我ト云者ヨ

リ書簡ヲ以テ先年阿如港ノ黒船罪セラレタル
コトヲ問テ御朱印ヲ賜リ高買前々ノ如ク相
違ナカラシコトヲ請フ東曾訥ハ彼國ノ貴族也
ト云ヘルヲ以テ渠ヲ駿府ニ召テ神君ハ拜謁
スルヲ許サレ御朱印ヲ賜リ且本多上野介
後藤庄三郎カ許ヨリ東適我并阿鳩港ノ耆老ノ
許ハ書牘ヲ贈ラセ以後商舶長崎ハ入津ニ於テ
ハ貨物交易違儀アレハカラサレ由ヲ諭サレ

八月小

○二日駿府ノ藤堂高虎カ宅ハ義直君頼宣君

両主ヲ招請シ水無瀬前參議親具入道一舟鈴木
久右衛門重量等ノ好事ヲシテ猿樂ヲ催シ次ニ
相撲五番次ニ高虎侍童三十餘人錦繡ヲ粧ヒ風
流ノ踊ヲ成ヌ永井直勝本多正純松平右衛門大
夫正綱村越茂助直吉後藤庄三郎其席ニ見物ス
○三日常陸下野ニ盜賊餘多蜂起シ於所々ニ
夜討シ白晝ニモ火砲ニテ旅人ヲ殺シ荷物ヲ奪
フ依ニ台徳公ノ輕率頭細井金兵衛久永源兵
衛服部仲馳向七九十三人召捕テ梟首シ小山ノ
芋柄新田ニ晒ス群盜是ニ懲テ忽靜謐ス

○四日 台徳公ノ使節安藤對馬守重信叅向ニ
神居ノ御旨ヲ伺フ処加藤清正カ遺領其子藤松
ニ相違ナク賜ル 密旨ヲ得テ敢叅ス
○六日 台徳公仰ニテ丑ケ條ノ制令ヲ施シ玉
ヒ切支丹宗門ハ異邦ノ密計タル條堅ク停止并
近年蠻國ヨリ渡ル煙草ヲ禁セラル在國在城ノ
輩ハ大炊頭對馬守及青山圖書助重成奉書ヲ
呈ス
○十日 板倉内膳正重昌 禁濶造管ノ監使ト
メ上京ス是ハ京尹伊賀守勝重カ二男ニメ弱年

ト云ハ氏英才ノ稱アリ
○十三日 早朝ニ 神居淺間山ニ至リ目當ヲ
二町餘ニ置テ筋ツカラ火砲ヲ發シ玉丁的ノ星
ニ玉ヲ夕ル丁丑ケ度近臣モ又火銃ヲ發スト云
于時駿城櫓ノ上ニ真三羽居ル筋ヲ筋ツカラニ
羽ヲ打落シ玉丁殘ル一羽モ足ヲ打切ラレ十カ
行飛去又殆ト間敷五十間ニ及フ諸人甚々驚歎
ス
○十六日 淺野彈正少弼カ退隱ノ料トシテ先達
所宛行ル常陸真壁五方石ヲ其庶子宋女長次ニ

賜北濱二謹疊ノ洪恩也

長次ハ内五及長矩カ高祖也

○廿二日 奥州會津大地震已ノ刻猪苗代四万

石ノ地陥入ニ潮ト成ル死没スル男女二千七百

餘是多々美川埋ル也

○廿四日 江府ヨリ加藤藤松奏向セシム今度

亡父清正カ家督ニ台徳公ヨリ相違十ク賜リ肥

後ニ下國スニキ旨命ヲ蒙ル其御礼トメ黄金

五百兩白銀千兩 神君ハ獻ス遠江參謀頼宣郷

年質子トメ在江戸ス肥後國監察トメ年礼郷

右衛門勝成小澤瀨兵衛正重下向スニト云

細川越中守暹羅國ハ高舩ヲ遣シ象牙白紺孔雀

豹ノ皮等ヲ得テ是ヲ獻ス

○廿六日 駿府西丸ニテ神變膏ヲ練ラセ玉フ

○阿部備中守正次大番頭ト成ル伏見ニ在番ス

○廿八日 浅畑ニ出 御火砲ヲ以テ鴨二羽ヲ

連子打落シ玉フ

○是月 長谷川藤廣長崎ヨリ来リテ今年大明

南臺異城ノ高舩八十餘艘長崎ニ来ル由ヲ言上

シケルニ 神君悦ヒ玉フ

○九月大

○三日 佐久間河内守政實尾州名護屋ヨリ飯
糸之城築ノ圖ヲ獻ス

○十日 夜前子ノ刻ヨリ御取芳早朝ニ與魔法

印宗哲ヲ召シ御脉ヲ診セラレント欲シ玉ヲ

処ニ遷祭セシメ宗哲御気色ヲ蒙リト云一氏

早速御快復工一是ヲ許ナリ

○十一日 台徳公ノ姫君越前女将忠直朝臣一

嫁娶ニ依テ江府ヨリ土井大炊頭扈從ニ駿府ニ

着シ玉ヲ則テ神君御對顔ニ丸ニ留止セラレ干

時十一歳也

○十五日 右姫君御饗應ノ猿樂アリ去年御気

色ヲ蒙リ同朋石川福阿弥蟄居免許アリ

○十六日 洛陽吉田神龍院泰向ニ藤氏系圖一

卷ヲ獻ス雍州府志曰ト部兼俱カ子僧ト成リ九

部習合ノ神道ヲ行シ人ト云ニ兼俱ハ家法ヲ背キ兩

○十八日 越前一姫君今日駿府ヲ發樂

ト云ニ

○十九日 林道春ニ建武式目ヲ讀セ其得失ヲ

論セラル浅野采女正ヨリ七父長政カ遺物鎮西

ト云ニ葉茶壺ト長光ノ刀ヲ獻ス

① 廿日 南臺ヨリ貢ル世界圖屏風 台覽干時
 長崎奉行長谷川左兵衛并後藤庄三郎ヲ召テ
 外國ノ事御雜談アリ
 ② 廿二日 堀尾帶刀遺物トシ真壺花黄金千兩
 山城守忠晴ヨリ是ヲ獻ス
 ③ 廿五日 頼宣郷ノ附屬セラレニ岡野三右衛
 門房次駿府ニ於テ死没ス 享年三十九歳
 ④ 廿六日 遠江參議中將家附屬ノ諸士ニ取領
 可被宛行ニ依テ安藤帶刀水野對馬守彦坂九兵
 衛ヲ召テ遠江國中ノ郷村帳ヲ以テ 御前ニ

於テ會議セラレ

⑤ 廿七日 神君藤堂高虎宅ニ渡 御アリ
 ⑥ 廿八日 江府ノ姫君於越前福居城娶ノ儀式
 アリ供奉ノ土井大炊頭渡辺山城守長谷川筑後
 守越前ノ光臣等ト禮式ヲ沙汰セシム 後年越後
 中將光長ノ母堂高田殿ト云フハ是ナリ
 ⑦ 晦日 駿府二ノ丸頼宣郷ノ亭ニ藤堂高虎ヲ
 招キ饗セラル 神君ニ渡 御アリ日野唯心金
 地院傳長光因光寺長光 允足利學豫齋ス

十月小

○朔日 駿城經營造畢 山科少將吉緒 冷泉侍從
爲滿船橋式部少輔秀賢 糸向之御對顏秀賢諸家
系畧雇風一 双ヲ獻ス 下間少進法印飯沼ノ暇玉
ハリ篋子一 疋ヲ授ケラルル 且遠州
濱松近取市野村ニ惣大夫ト稱スル 富民アリテ
馬ヲ好ニテ 然モ相敗ニ精ニ年来 神君御馬ヲ
渠ニ預ケラルル 爲ニ其近辺ノ租稅ヲ掌ラシメ玉
フ 今日叅上シテ 生姜ヲ獻ス 諏訪部宗右衛門定
吉ヲ召テ 御前ニテ 市野惣大夫ト牧馬ノ論談
ニ及フ

○三日 加藤藤松肥後ノ國ニ下向ス 藤堂和泉
守彼國ニ赴キ 國務ヲ亂スニキ 命ヲ蒙ル
○六日 坂東御放鷹ノ夕メ 駿城ヲ發セラルル 本
多上野ノ安藤帶刀成瀬隼人正松平右衛門大夫
村越茂久後藤庄三郎供奉ス 日野水無瀬冷泉山
科船橋モ 台駕ニ從フ 処ニ日野唯心ニ俸米五
百石水無瀬一畝ニ同八十石 山科船橋冷泉ニ黃
金十兩美服一襲ヲ授ケラルル 路次八幡辺ニテ 躬
ツカテ得玉ヲ鷹一羽唯心ニ賜フ 清水ノ旅營
ニ著 御ニ玉ヲ燭ヲ乘メ 後右ノ堂上衆伺候ス

今日金森法印二男五郎ハ廿五歳ニテ卒ス其領
スル江濃二州ノ内二万石ヲ収公セラル是齋
法印死
期配分ノ
地十リ

○七日 善徳寺ニ著 御火砲ニテ躬ツカラ鶴
ヲ得玉フ

○九日 小田原ニ著 御城主大久保相模守拜
詣スル処其嫡男加賀守忠常カ疾病ヲ訊玉フ

○十日 相州中原ノ旅殿ニ著 御江府ヨリ安
藤對馬守来テ御膳等ヲ沙汰ス今日大久保加賀
守忠常ニ十二歳ニメ卒ス 台徳公無双ノ寵臣

天資柔和ニメ諸臣是ヲ崇ヒケル処矢七セシカ
ハ甚々衰慕ノ餘老臣ニ達スルヲ懈リ各小田
原ハ群衆シ父忠隣カ愁傷ヲ慰メ問フ抑忠隣ト
本多佐渡守正信ハ西翼ノ執事タリ内々ニハ其
威ヲ争ヒケルカ今般幕府ノ諸臣五三日ノ間
連綿メ根リニ小田原ニ赴クヲ憎ミ且是ヲ幸
トメ諛問ヲ成スト云々

○十一日 神君相州中原ニ著 御上
○十二日 相模川辺ニテ 御駕ヲ進メラル処

暴雨ニ依テ中原ノ旅殿ハ還 御アリ

○十三日 藤澤ノ旅營ニ著 御アリ

○十四日 神奈川ノ旅館ニ著 御此取テ

台徳公是ヲ迎ヘ玉ヒ暫時御閑談ノ上

台徳公ハ是ヨリ江城ニ還駕セラル

○十五日 稲毛ニ著 御途中ニテ白鷹始テ鷲

捉メテ得タリ御喜色欣然タリ

○十六日 神君ヲ迎ヘ奉ルヘキ爲ニ大小名芝

金杉ニテ群衆ス午ノ后刻江城西九ニ著 御藤

堂高虎肥後國仕置ノ 命ヲ蒙リ駿府ヲ奔ス且

伏見在衛中貞第ノ由 台徳公ノ上聞ニ達シ野

州皆川ノ地一万石ヲ山口但馬守雅朝ニ加恩ア

リ干時大番頭也

○十九日 江府海辺ニ白鳥多クアル由上聴ニ

及ヒ 神君火砲ノ妙手數人ヲ携ヘ御乗舩海上

ニ赴カセ玉フ処ニ風波起テ御舩動搖シ目當定

ラスニテ還 御今晚越前ヨリ土井大炊頭飯

姫君御入乗ノ趣言上ス

○二十一日 本城ニ於テ猿樂アリ是ハ 台徳公

大久保忠常カ事ヲ悼惜シ玉フノ聞ヘアル工

神君ヨリ是ヲ慰メノ夕メニ此興アリト云ク

○廿二日 又猿樂アリ 台徳公ノ御臺所之ヲ
見玉フ諸大名ノ質人妻子見物スルヲ許サレ

○廿三日 近在ヲ放鷹シ玉フ

○廿四日 神君本城へ渡 御 台徳公大手門

内番取十人ニ迎へ玉フ 竹千代君家光國丸主

忠長御玄關ニテ出向ハセ玉ヒ 神君ノ左右ノ

御手ヲ携へテ既ニ大奥へ入 御大御臺所

一御對顔 台徳公御陪膳ニテ御饗應本多佐渡

守伺候政務ノ御沙汰ニ及フト云

○廿五日 神君ニ縁山増上寺へ詣シ玉フ是日

台徳公駿府ノ元老本多正純并永井直勝安藤重

次成瀬正成松平正綱且大久保長安村越直吉長

谷川藤廣ヲ數寄屋へ 召テ鷹御料理ノ上喫茶

ヲ點シ之ヲ賜フ

○廿六日 神君戸田ノ邑ニ放鷹セテ安藤對

馬守重信庖厨ノ雜事ヲ沙汰セテ 尾張遠江兩

ヲルト云

武徳編年集成卷ノ五十九終

